

【ポスター発表】

**社会福祉サービス供給体制にみる今日のスウェーデン・モデルの特質**

—地方自治体の障害者福祉サービスを事例に—

○ 中部学院大学 氏名 福地潮人 (006475)

キーワード：スウェーデン、コミューン、社会福祉サービス供給体制

**1. 研究目的**

スウェーデンは、公的部門が税財源によって質の高い社会福祉サービスを提供してきた代表的な福祉先進国の一つである。そのような社会福祉サービスの供給体制は、スウェーデン・モデルと呼ばれる概念を構成する一連の政策スキームの一部を構成し、その他のマクロ政策とも連動しながら、高度に完成された福祉国家を実現してきた。しかしながら、90年代以降、スウェーデン・モデルを取り巻く環境は一変した。このモデルの根幹であった積極的労働市場政策は、90年代半ば以降の失業者数の増大に十分な歯止めをかけることができていない。また、産業構造の側面での新陳代謝を促進してきたケインズ主義的マクロ経済政策に関しても、国内資本の海外移転のために十分な成果を発揮できず、今や雇用なき成長をもたらしている。これらスウェーデン・モデルを構成してきた個々の政策スキーム間の調和がとれず、もはや完全雇用と経済成長の同時達成という最終目標からは大きく遠のきつつある。このような状況を背景にこのモデルの「有効性」に疑念を呈するかのよう議論が90年代以降、久しく繰り返されてきた(篠田 2012: 198)。

多くの批評者の指摘するように、マクロ・レベルに関して言えば、確かにスウェーデン・モデルはもはやかつてのような有効性をすでに失いつつあるのかもしれない。とは言え、そのことをもって、このモデルの危機や終焉をいたずらに主張するのは拙速であろう。スウェーデン・モデルは、ますます流動化する現代の政治経済的環境のなかで変化し続けているのである。今日求められているのは、こういった変化を正確に把握し、詳細に検討した上で、改めてこのモデルの有効性を問い直すことである。

以上のような背景を踏まえ、本報告では今日のスウェーデン・モデルの特質を浮き彫りにすることを目的に、スウェーデンのローカル・レベルにおける社会サービスの供給体制に焦点を当て、その実態を分析する。

**2. 研究の視点および方法**

スウェーデンのヤルフェッラ市とポートシルカ市の二つのコミューンにおける障害者福祉サービスの供給体制に焦点を当て、双方を比較する。主な研究方法は、双方のコミューンにおけるインタビュー調査の結果と、各コミューンおよび関係機関が作成した資料の分析と検討である。

### 3. 倫理的配慮

本研究では、調査対象者に対して、調査結果の提示に際しては個人名を明かさず、全て仮名を用いること、調査で得られた資料や情報は研究目的にのみ使用すること、の2点を予め約束した上で調査を行った。また、その他の箇所についても、日本社会福祉学会の定める「研究倫理指針」に基づいて、倫理的な配慮を行った。

### 4. 研究結果

本研究を通して明らかになったのは、以下の3点である。

まず第1に、社会福祉サービスの民間委託の程度については、当該コミュニティの政治文化的背景が大きく影響しているということである。中道右派が政権を担っているヤルフェツラ市では、社会福祉サービス供給の民間委託が積極的に進められており、同市内の「成人用特別住宅」(障害者用のグループホーム)の大半が民間企業によって運営されていた。一方、社会民主党が強い地盤を保っているボートシルカ市では、ほとんどの社会福祉サービスは現在もなお市によって直接供給されていた。

第2に、上記のような民間委託の程度の相違は、両コミュニティにおける民間委託に対する評価の違いとも関係する。ヤルフェツラ市では、社会福祉サービスの民間委託はサービスの質の向上という面で好意的に受け止められていた。一方、ボートシルカ市では、民間委託の効果は否定的に受け止められていた。同市では、公的に提供されている障害者福祉サービスのいずれもが、障害者自身の将来的な自立生活を目標としている。民間事業者に委託した場合、このような目標が軽んじられ、障害者の自立生活が阻害されるのではないかという懸念がその理由であった。

第3に、両市に共通する特徴として、コミュニティ・レベルでの独自のサービスが数多く用意されている点が挙げられる。とくにボートシルカ市では「移動チーム」など、ナショナル・レベルでは規定されていない独自のサービスが設けられていた。また、両市ともにナショナル・レベルでは規定されていない重度精神障害者の日中活動についても、様々な形で提供していた。これらの点から、国と地方自治体が相互に補い合うサブシディアリティのシステムが個々の障害者の暮らしを支える基盤となっていることがわかった。

### 5. 考察

スウェーデンでは、コミュニティ自体の自立性と自由度の高さが、障害者の生活を支える鍵となっている。障害者福祉サービスの供給という点から見る限り、今日のスウェーデン・モデルは決して画一的なものではない。各コミュニティのもつ多様性に裏打ちされた高度な地方分権社会という点こそ、今日のスウェーデン・モデルの大きな特質の一つであり、わが国の地域福祉のあり方を考察する上でも大いに「有効」な示唆となり得るのである。